株式会社　矢川原様　田中社長邸新築工事

一級建築士事務所でもある株式会社矢川原（埼玉県川越市、田中尚代表取締役）様は、川越の山田地域を中心に、半世紀にわたり地域密着を第一として工務店経営に取り組んでいます。このほど田中社長自ら設計された自宅兼モデル住宅を本社近くで建築開始し、屋根断熱にシュタイコのフレックス 038 を 150 平方㍍ほど採用していただきました。２月下旬に搬入させていただき、早速屋根断熱工事に入ったことから、2 月末に施工の様子を見学しました。

矢川原様は、檜 4 寸角を用いた樹楽の家（きらくのいえ）を提案し、無垢の木に包まれて木を楽しむ家、大切な趣味を思いっきり楽しめる空間のある家、もっともっと暮らしを楽しむ家づくりに取り組んでいます。http://yagahara.co.jp/

家づくりの理念は一貫しており、樹のぬくもりを感じ、末永く家族と共に歩んでいける、自分たちの夢やこだわりをかなえる家を、どうしたらカタチにできるかわからないと悩んでいる人たちのために、とことん親身になって相談にのり、“それぞれの想い”を重ねながら、時を経るごとに味わいを深める家づくりをお施主様と一緒に考えます。

田中社長は、「裸足になってほっとする無垢の木のぬくもり、木の香りに癒される樹楽の家の暮らし、人生を楽しむ暮らしを提供することに生きがいを感じています」と語ります。
現在建築中の社長邸も構造材、羽柄材、内装材など檜をふんだんに使用しています。階段板も大工さんによる手加工で美しい納まりとなっていました。大工さんによる精緻な手加工が同社の木造住宅の特徴でもあります。

本物の木を使った住宅が同社の目指すところで、シュタイコ木繊維断熱材も間伐材のみを原材料とした断熱材ということで、かねて関心があり、以前にも採用したことがあるそうです。
シュタイコ木繊維断熱材の施工は、大工さんが現場で定規と丸鋸で収まりに合わせてカットして施工します。今回は屋根断熱用に 100 ㍉厚を二重施工することで断熱性能を高めるようにしました。田中社長は、「特にシュタイコ木繊維断熱材が持つ熱容量の大きさに注目した」とのことです。

施工現場は既に屋根面の一部がシュタイコ木繊維断熱材で覆われ、工事中でしたが、何となく暖かい感じがしました。カットした断熱材端材は屋根面の隙間を埋める材料として使用していました。田中邸工事では竣工後、温熱環境等の測定を一定期間実施してデータを取得

する計画です。開口部の一部には大型の木製サッシ（ペア）を使うとのことです。
施工の様子を拝見して、工期短縮など断熱材施工の合理化、丸鋸で加工した後の鋸屑の処理などが課題として残りました。

同社は毎年開催されている「川越まちゼミ」にも出店しています。新型コロナ感染症で厳しい情勢ではありますが、今回は 4 月 11 日、13 日に建築中の現場をモデルに「現場開催！夏涼しく冬暖かい家の作り方」を開催するそうです。詳細は矢川原様のホームページをご参照ください。「川越まちゼミ」は 3 月 26 日から 4 月 30 日の予定で開催されます。
https://kawagoe-machizemi.net/

「寒い家はもう嫌、そう思っている方も多いことと思います。住まいの理想は夏涼しく、冬暖かい。そんな快適な家を作るために、絶対に欠かせないのが気密と断熱です。今回は、ちょうど建設中の現場を見ながら、気密と断熱について、わかりやすく解説します。新築を検討中の方はもちろん、断熱リフォームに興味のある方にもきっとお役に立つ内容です」（田中社長）。

STEICO flex 038